

精度玉成からリバーズ、 測定サービスまで プレス金型メンテナンスの専門企業

株光佐

株光佐（群馬県太田市）はプレス金型の補正（精度玉成・修正）、設計変更（設変）改修、リバーズエンジニアリング、測定サービスなど、金型メンテナンス事業を専門とする全国でも珍しい企業だ。これまでも金型メンテナンスを手がける企業はあったが、従業員数2～3人規模の企業がほとんどで、作業も手作業によるものが多かった。同社の強みは、熟練工による職人技と3次元スキャニングやマシニングセンタなど最新のデジタル技術を組み合わせ、顧客ニーズに迅速に応えられること。取引先は日産、ホンダ、トヨタ、スバル系のティア1メーカーを中心に約50社（過去3年間の実績）。その数は年平均5社のペースで増え続けている。

金型メーカーから業態転換

1960年の創業で、もとは自動車部品や厨房機器向けの新型づくりを中心にするプレス金型メーカーだった。メンテナンス業に踏み出したのは1981年。菊池プレス工業株（現株ジーテクト）と取引を開始する際、金型メンテナンスを求められたのがきっかけだった。それ以降、設変改修など

会社概要

会社名：株光佐
代表者：代表取締役社長 佐口 泰史
本社：〒373-0852 群馬県太田市新井町 147-6
TEL：0276-48-6565
設立：1960年
従業員数：25人
資本金：2,000万円

の業務が徐々に増えていった。

「実は、新型をつくるよりも設変改修のほうが、圧倒的に利益率がよかったからです」と佐口泰史社長は打ち明ける（写真1）。トランスファプレスやタンデムプレスに用いられる鋳物金型の場合、鋳物を吹いてから金型代金を回収するまで、早くても4カ月以上かかるが、設変改修なら、うまく行けば数日で代金回収ができ、新型づくりのように資金計画を考える必要もないためだ。このビジネスの難しさは、顧客の数が少ないと成立しないことだが、同社はもともと顧客数が多かったことが幸いした。

そして、しだいにメンテナンス事業に重きを置くようになり、約10年前には新型づくりをやめ、金型メンテナンスの専門企業となった。

3Dスキャニングが新たな武器に

だが、そのメンテナンス事業にも紆余曲折があ



写真1 佐口泰史社長